

那須から発信(発進)!

No.74
2022年12月

経営改善情報誌

とちぎの元気創出!



生分解性マルチ展張作業



さつまいも生育状況

表紙の説明

みどりの食料システム戦略推進の一環として、生分解性マルチの展示試験を大田原市内で行いました。慣行マルチと同様にマルチャーを使用して展張し、さつまいもを栽培しました。豊かな農村環境を未来に残すため、「環境に配慮した農業」への取組が始まっています。

もくじ

- ◆表紙 「生分解性マルチ展示ほ作業風景」 1
- ◆所長あいさつ・会長あいさつ 2
- ◆土地利用型園芸の展示ほで研修会を開催しました 3
- ◆経営改善事例紹介(大田原市 角田剛雄さん、那須町 相場博之さん、祥子さん) 4~5
- ◆農作業安全対策・各種表彰者紹介 6

認定農業者の皆様へ

那須農業振興事務所長の澤田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

認定農業者の皆様におかれましては、日頃より那須地域の農業・農村の振興について御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

農業・農村を取り巻く環境は以前にも増して厳しく、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う需給の変化や、肥料や飼料、ハウス資材などの農業用資材の高騰、ロシアのウクライナ侵攻等に伴う世界的な穀物価格の上昇など、新たな課題も生じており、これまで以上に的確な経営判断や販売戦略に基づく作物の選択と生産が必要と考えられます。

当管内は、畜産をはじめ、米麦、園芸の生産が盛んで、本県の農業産出額の約3割を占める県内有数の農業地帯であります。その持続的な発展を図るため、当事務所では栃木県農業振興計画「とちぎ農業未来創生プラン」の中に「①那須野ヶ原水田農業の確立、②那須地域における持続可能な畜産経営への取組『畜産力の強化』、③地域資源を生かした農村地域の活性化」という3つの地域戦略を位置づけ、人・農地プランの実行やとちぎ広域営農システムの構築による担い手の確保、需要に応じた米生産の推進、自給飼料の増産や耕畜連携による堆肥の有効活用など、様々な農政の課題に取り組んでいるところであります。

那須野が原の広大な水田をフル活用しつつ、人と農地と作物を適切に組み合わせ、これらの経営資源を次代に引き継ぐとともに、収益力の高い農業の実現を目指したいと考えております。

これらの実現のためには、何よりも認定農業者の皆様の御理解が不可欠でありますので、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

栃木県那須農業振興事務所長 澤田 和美



那須地区認定農業者協議会長として

令和4年度、令和5年度的那須地区認定農業者協議会の会長に就任しました佐藤孝です。大田原市で、水稻とトマトの複合経営を行っています。

さて、私たち農業者を取り巻く環境は、地域農業の担い手不足、米価の下落など、諸問題が山積しております。また、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻の影響が今後どう拡大していくのかわからず不透明であり、私たちにはこれまで以上に経営感覚を養う必要があると考えられます。

当協議会としましては、変化する農業情勢に対応していけるよう、研修会の開催や有益な情報提供を通じ、那須地域を支える認定農業者の資質の向上や経営の安定に努めていきたいと考えております。ここ2年間は思うように活動できない状態が続いていますが、新型コロナウイルス感染症が収束した際には、視察研修や経営改善のための講習会の開催を予定しておりますので、多くの会員の皆様に御参加をいただき、経営を発展させていく一助になれば幸いに存じます。

最後に、会員の皆様の農業経営の向上はもとより、地域農業発展のために、各市町の認定農業者の会、関係機関・団体と連携を図りながら実りある活動ができるように努めてまいりますので、今後も皆様の御協力と御支援をお願いしまして挨拶に代えさせていただきます。

那須地区認定農業者協議会長 佐藤 孝



土地利用型園芸の展示ほで研修会を開催しました!

土地利用型園芸の普及推進を図るため、令和4(2022)年9月に、大田原市富池の土地利用型園芸導入実証展示ほ及び大田原市奥沢の生分解性マルチフィルム利用展示ほで、土地利用型園芸の現地研修会を行い、生産者、関係者12名が参加しました。

大田原市富池のほ場では、基盤整備に併せて令和2年度に「栃木県型地下かんがいシステム」を導入しており、このシステムを活用した園芸作物栽培の実証として枝豆を栽培しています。本システムは、ほ場の地下に設置してある暗渠を利用し、地下(暗渠排水)からほ場に用水を補給できるシステムです。また、補助暗渠によって、排水性が向上します。

本システムの土地利用型園芸における有効性を確認するため、令和4年度は枝豆を作付けし、子実肥大期前後に地下かんがいを行うことで、収量向上に効果があるか検討しています。

栽培担当農家は、「地下かんがいシステムのおかげで、枝豆がよく実った感触がある。排水性もよくなった。」と感想を述べていました。

大田原市奥沢のほ場では、生分解性マルチフィルムを使用したさつまいも栽培について、実証を行っています。

生分解性マルチフィルムは、作物収穫後に土壤中にすき込むと、微生物により水と二酸化炭素に分解される資材です。マルチの回収作業や廃棄処理が不要で、省力化や環境面で優れた特長を持っています。

栽培担当農家は、令和4年度に作付けしたさつまいも約4haの全ほ場で生分解性マルチを使用しており、「生分解性マルチは通常のマルチに比べると高価だが、マルチを回収する手間が省けることを考慮すると、大規模なさつまいも栽培には生分解性マルチが必須と考えている」と感想を述べていました。



栃木県型地下かんがいシステムの説明
(枝豆ほ場)



生分解性マルチフィルムの確認
(さつまいもほ場)

経営改善事例紹介

仕事一辺倒にはなりたくない

大田原市 ^{つのだ}角田 ^{たけお}剛雄 さん

「もし生まれ変わったら、次は農業とは別の道を選んでいると思う。」

そう語るのは、「なし(170a) + とうもろこし(100a)」の複合経営を営む、角田果樹園の園主、角田剛雄さんです。2002年春に県農大を卒業後、県農業試験場果樹研究室での3年間の研修を経て2005年に就農しました。「就農に迷いはなかった」という剛雄さんが語る農業の魅力は、「自分の思ったようにできる」「家族で過ごす時間が増える」ことだそうです。

角田果樹園では、主力品目の「なし」に、作業時期が重ならない「スイートコーン」を組み合わせ、直売を拡大することで所得の向上を図ってきました。技術面では、先代の昌男さんの頃から、なしの結実対策として梵天での人工授粉に取り組んできましたが、剛雄さん就農後は研修時に習得した溶液授粉を新たに導入し、結実の安定と果形の改善を実現してきました。さらに、なしの老木化対策では、老木樹の樹勢強化剪定技術を早くから導入し、生産性の維持、向上を図るほか、凍霜害対策では防霜ファンを導入して凍霜害発生リスクの軽減を図るなど、新たな技術や設備を積極的に導入することで、世代をまたいで経営の改善を図ってきました。

剛雄さんは2019年に父の昌男さんから経営委譲を受けました。それ以前は、作業の合間を見つけては趣味の自転車やスキーにいそしんでいましたが、今では朝早くからほ場の見回りや作業の段取りに向かうようになりました。仕事人間になった自分に驚いているそうです。

そんな矢先、2020～2021年にかけて春先の天候不順により全国的になしの生産が低迷し、本県でも低温による結実不良や凍霜害、雹害により2年連続で収量が平年を大きく下回る事態になりました。幸い、品薄による高単価で収益が大きく落ち込むことは避けられたものの、天候に左右される農業の厳しさをあらためて思い知らされることとなりました。

当面の課題は、老木樹の改植と両親の引退を見据えた労働力の確保とのことです。これまでどおり品質にはこだわりながら、根圏制御栽培などの早期成園化技術も視野に入れつつ改植を進めるとともに、作業の省力化と単純化を図り、家族労働から雇用への転換を検討しています。

「仕事一辺倒にならず、家族との時間や自らの趣味も大切にしていきたい。」と、笑顔を見せる剛雄さんの今後が期待されます。



梨の摘果をする角田剛雄さん

誰よりも牛と遊ぶ

那須町 ^{あいば}相場 ^{ひろゆき}博之さん、^{しょうこ}祥子さん (ばんずふあーむ)

那須町の相場博之さん、祥子さん(屋号:ばんずふあーむ)は、2015年、栃木県において18年ぶりとなる酪農経営への新規参入をしました。

当時、初任牛15頭の導入から始まりましたが、現在は、乳用牛(経産牛)50頭、繁殖雌牛6頭を飼養しています。乳用牛1頭あたりの年間乳量は12,000kgを確保し、安定した酪農経営を行っています。また、那須町の和牛農家と協力して、繁殖雌牛の遺伝子改良にも積極的に取り組んでいます。



相場 博之さん、祥子さん

特に、ばんずふあーむでは、「牛と遊ぶ」をモットーにし、アニマルウェルフェア(動物福祉)に配慮した、牛にストレスをかけない飼養管理を実践しています。そのため、ホテルマンのように牛をもてなす意識を大切にしており、牛が快適に過ごせているか、牛が何をしてほしいのかを考えながら作業をしています。

また、自分達の新規参入経験を活かし、近年、酪農へ新規参入した人達とともに活動の輪を広げています。今年の3月、新規参入した4戸の酪農家達と「栃木 新規就農者の会」を発足しました。県内のみならず、就農希望者に対してSNS等を活用しながら情報発信や支援を行っています。

ばんずふあーむは、新規参入から7年目となりますが、県内外の酪農業界をさらに盛り上げる存在として、今後の活躍が期待されます。



整頓されたフリーバーン牛舎で作業する2人



隣人の農家より借用し、DIYで修繕した牛舎

農作業安全対策を徹底しましょう!

農作業の安全確保は農業経営の基本です。しかし、本県では農作業による**死亡事故が毎年発生**し、平成23年から令和2年までの過去10年間に**68名**もの尊い命が失われています。

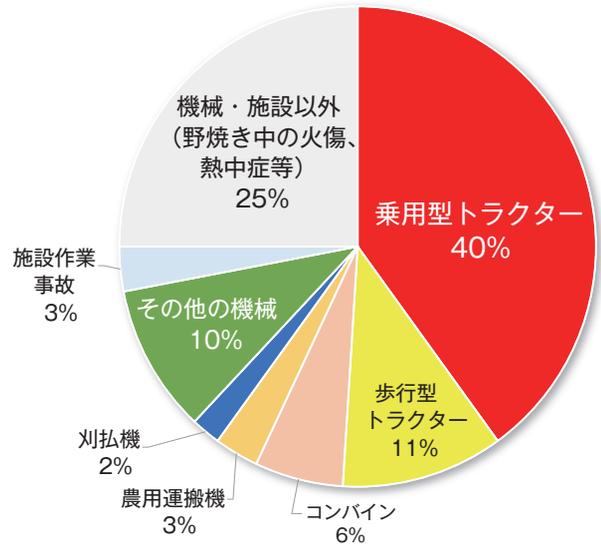
また、死亡事故の原因は**乗用型トラクターによるもの(転倒、転落、ロータリーへの巻き込まれ事故等)**が最も多く**全体の4割**を占めています。事故を防止するために以下の点に注意しましょう。

乗用型トラクターの事故防止のポイント

- ①安全キャブ・フレームのある機種を使用し、シートベルト・ヘルメットの着用を徹底しましょう!
- ②転倒事故が発生しやすい「農道と畦畔の境界」の草刈を徹底しましょう!
- ③作業を終了し、ほ場を出る際は昇降路の手前で必ず一旦停止し、ブレーキの連結ロックを行いましょう!

栃木県における農作業事故死亡者数(H23~R2)

年次	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
死亡者数	7	10	6	4	8	9	4	5	8	7	68



栃木県における農作業死亡事故発生時の使用機械等 (H23~R2)

おめでとうございます! (各種表彰者紹介)

全国優良経営体表彰者紹介

令和4年10月に福井県で開催された「第24回全国農業担い手サミット in ふくい」において、全国優良経営体表彰者が発表され、那須地方から那須塩原市西遅沢の「株式会社ゆずりは(代表:遅澤喜則さん)」が経営局長賞を受賞されました。

水稲と園芸作物の複合経営を行っている(株)ゆずりはは、米価の下落に対応するため早くから新規需要米や園芸作物に取り組んだことや、新規就農希望者等を研修生として積極的に受け入れていことなどが高く評価され、今回の受賞となりました。



農事功績者表彰者紹介

令和4年3月に、大日本農会の令和3年度農事功績者表彰者が発表され、那須地方から大田原市湯津上の江崎明雄さんが紫白綬有功章を受章されました。

梨専作経営の江崎さんは、栃木県園芸特産振興協会のリーダーとして本県育成の晩生品種「にっこり」の産地形成に尽力したことや、東日本大震災後の輸出再開に貢献したことなどが高く評価され、今回の受章となりました。

編集・発行

栃木県那須農業振興事務所

令和4(2022)年12月

〒324-0041 栃木県大田原市本町1-3-1 ☎0287-22-2826 FAX 0287-23-7994
事務所ホームページ <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g56/index.html>



事務所HP

★農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。
★農業機械の転落・転倒事故にご注意ください。